

15 レポート

- ・学習したことの中から、疑問に思ったことを1つ以上挙げ、調べたうえで分かったこと、考えたこと、さらに疑問に思ったことをレポートする。
- ・「かわいそう」や「気の毒」といった同情で終わりにせず、過去から現代まで続いている差別や偏見といった社会問題（ハンセン病に限定せず）にどのように向き合っていくことが大切かをレポートする。
- ・字数は900字（30行）以上とする。

私は今回ハンセン病を学び、当時のハンセン病患者やその家族がどのような対応をされたのか、どのような運命をたどったのかなどを理解した。そして、ハンセン病について学ぶ中で疑問に思ったことがある。それは「なぜ、ハンセン病にかかった人やハンセン病患者のいる家族を差別するのかわ」ということだ。なぜなら、ハンセン病は感染力が低いためうつる可能性は低く、実際に多くのハンセン病患者がいた療養所の職員は誰一人かかっていたわけではない。そのため、ハンセン病にかかったからといって差別をすることはおかしいと思う。しかし、現実には差別していた。おそらく、普通の人と外見が変わってしまうこと（皮膚に赤い斑点や斑紋ある、後遺症により体の一部

が変形するなど）やハンセン病にかかったら自分も差別されることを恐れていたため、かからないうように避けていたのだと私は考える。これは国の対応の仕方に問題があると思うし、私たちの受け止め方にも問題があると思う。強制療養所行きやハンセン病患者の自宅を調べて消毒するなど国の対策は当時では最善だったのかもしれない。しかし、国民がその様子をみたらハンセン病はとても危険な病気だと思ってしまうだろう。そのため、国民は自分がハンセン病にかからないうようにハンセン病患者やその家族を差別やいじめをし、避けることをしていたのだろう。国の対応、仕方、私たちの捉え方でこのような悲劇を生んでしまう。結局、ハンセン病が差別の対象になった原因は、国の対応の仕方、その対応を悪い方向へ捉えてしまった私たちである。さらにハンセン病による悲劇が起こった。また、最近のコロナウイルスでも差別やいじめなどが起きてしまっている。また、昔とは違い、インターネットが普及した現在では、簡単にテーマ情報が流出、拡散し、

お店や住宅などさまざまな場所で甚大な被害が
出てしまった。だから、今後このような感染症が
起こってしまい、国が隔離などの対応をしたとして
も私たちは異様に捉えず、自分たちができる最低限
の対応をし、デマ情報を流さず、デマ情報に惑わされ
ず行動をすれば良いと思う。そして、病を患った人を
異へくするのではなく、病を患った人にどう関わっていくか
を大事にしていこうと思う。

15 レポート

- ・学習したことの中から、疑問に思ったことを1つ以上挙げ、調べたうえで分かったこと、考えたこと、さらに疑問に思ったことをレポートする。
- ・「かわいそう」や「気の毒」といった同情で終わりにせず、過去から現代まで続いている差別や偏見といった社会問題（ハンセン病に限定せず）にどのように向き合っていくことが大切かをレポートする。
- ・字数は900字（30行）以上とする。

胎児殺害を挙げました。理由としては、学習してきたハンセン病の中で一番ひどいことだと思、たからです。まず、何んじ産まれてきた新しい命を、おかしな偏見でそれをうばおうとするのかです。これまじ読んできた資料やインターネット情報からは、全生園にいる先生がハンセン病を患っている患者の子だからこの子もハンセン病だといふおかしな偏見が一番の理由として、多く出てきました。ここぞ思ったことが1つあります。「それは、ハンセン病患者の子は必ずしもハンセン病があるという証明がされないのでないにも関わらず、何処このように、個人の偏見を語り始めるのかと言うことでは、百歩譲って個人だけと思、この子のから、別に良いと思、りますが、なぜおどおどそれを、周りの他の人に言うのかという

ことに疑問を持ちました。これを考えた時に確かにハンセン病に関わらず、現代のおどろくことでもこのように根も葉も無いウワサが存在していることがわかりました。結果ハンセン病のほうは、このようにウワサによって命を落とす人が多くいるというところがわかりました。このように昔と今では、話題は違、結果として人は同じことを繰り返すということが資料や本からわかりました。ハンセン病は当時、人の体だけでなく人々の人生にも多くの被害を与えてきました。二度とこのようなことが起、らないように私たちは過去を知り、今と比較してそれに対して向き合、て行かなければなりません。差別についても、しっかり見つけ合、い。これによって過去多くの方が自殺や他殺をされたという現状を知ることが大切だと思、いました。このハンセン病という分野で学んだことをこれから生活や人生の中でどう活用していくかを考え間違、た道にだけは行かないように、意識づけたいと思います。

15 レポート

- ・学習したことの中から、疑問に思ったことを1つ以上挙げ、調べたうえで分かったこと、考えたこと、さらに疑問に思ったことをレポートする。
- ・「かわいそう」や「気の毒」といった同情で終わりにせず、過去から現代まで続いている差別や偏見といった社会問題（ハンセン病に限定せず）にどのように向き合っていくことが大切かをレポートする。
- ・字数は900字（30行）以上とする。

ハンセン病は、末梢神経や皮膚が「らい菌」により侵される感染症。悪化すると皮膚の変色や体の変形を伴うこともあり、その外見と感染に対する恐れから患者は差別の対象とより迫害されてきた。

ハンセン病療養所でどんな生活をしていくのか気になった。「療養所に入れられる＝病気が治っても死ぬまで出られぬ」ということだった。療養所の中では療養どころか土木作業、炊事洗濯、重病患者の世話、療友の火葬などあらゆる強制労働をさせられてきた。入所者に対して職員や医師、看護師の数が少なく入所者同士協力し助けあひながら生活をしてきた。

定員をかなりオーバーしていた療養所もあり、治療もまともに受けられないこともあった。私は何のために家族と引き離され、偏見や差別にめいながら隔離されているのかと思っただけ。

療養所では結婚をすることができたが、当時は生まれてきた子どももハンセン病という偏見を持たれていたため、断種を強要され、女性が妊娠すると墮胎が強要された。厚生省が認めたと墮胎児は7696体、赤ん坊は潰すにされた子どもは118体。本当はさらにこれを超えると言われて、命を軽く見られているし、偏見の度を超えると死にも関わってくるのかと感じた。

ハンセン病の裁判がこれより、勝訴判決が出たが、現代でもハンセン病への偏見がなくなり消え去る訳ではない。

当時何があったのか語り始める人が
たくさんいて、日本だけでなく、韓国は
とても辛い体験をした人はたくさんいた。
見た目では判断するのではなく、自分が
しっかり知識をもった上で人と関わるこ
が大切だと思っただ。
無知のままに、まろがらにこととしてしまうの
だ。今回ハセ病について学んで思っただ。

15 レポート

- ・学習したことの中から、疑問に思ったことを1つ以上挙げ、調べたうえで分かったこと、考えたこと、さらに疑問に思ったことをレポートする。
- ・「かわいそう」や「気の毒」といった同情で終わりにせず、過去から現代まで続いている差別や偏見といった社会問題（ハンセン病に限定せず）にどのように向き合っていくことが大切かをレポートする。
- ・字数は900字（30行）以上とする。

家族は「ハンセン病患者が住んでいる家」ということで選んで来たのが原因で、調べてみました。

家族はハンセン病患者が住んでいる家庭は療養所に隔離されているとかが住民に伝わり、嫌がらせを受けるところが多かった。例えば「病気の子どもは」に行くと、窓がうっすらと行けばいいのになどとよく暴言を言われたり、家を空けていた時、火燃えた跡があったり、飼っていた犬が首をうつらけて体中に殴られた跡があり、殺さかてしまった。他にも父親がハンセン病患者で、就職試験を臨みかけたが落ちてしまった。その日は学科試験トップでした。周りの偏見で就職にまで響いてしまっています。家族が着るものは悪いことをしてないのに差別が起きてしまうのは周りがいいから理解してあげることが大事だと私は

思います。ハンセン病は怖い病気、うつる病気と言われているため、家族の人にも偏見でうつる周りの人に分かれ、とても悪い病気なんだな、と思う。講演会で西浦直子先生に「怖い話を聞いて怖い病気、うつる病気ではいい。国が大切だと言って、患者や患者の家族がそれを受け受けているのが国がもっと早く対策をしたら家族の補償をしてあげることが一番家族が患者にといいことだ」と思う。周りの理解も大事。国が大切だと言われなければ、周りにはひどい偏見を持つことはなかったし、理解をしてくれない人も多かったです。だから、うつる病気、うつる病いとハンセン病に寄り添ってくれる人はほとんどいない人なんだなと思ったし、今でもハンセン病のことを分かれ、くくれる人は少ないと思うし、私とこの検査をするまでハンセン病のことを知らなかった。いろんな人に分かれ

てきびえるように講演会をたここんが、てきびうと
理解してくちる人が増え、いせ二病の偏見が
たかたかほいいいと換業を通して思ったし。
学んで良かったなって思った。

15 レポート

- ・学習したことの中から、疑問に思ったことを1つ以上挙げ、調べたうえで分かったこと、考えたこと、さらに疑問に思ったことをレポートする。
- ・「かわいそう」や「気の毒」といった同情で終わりにせずに、過去から現代まで続いている差別や偏見といった社会問題（ハンセン病に限定せず）にどのように向き合っていくことが大切かをレポートする。
- ・字数は900字（30行）以上とする。

23 私は学習した中でハンセン病の原因を知りたく
 24 かった。なぜならば私はコロナウイルスという感染症が
 29 最近にありコロナウイルスの原因がコロナウィルスというところも
 22 調べた。調べてみたところ考えた。ハンセン病の原因を調べた
 27 結果、細菌の一種であるコリネバクテリウム属の体内
 33 で増殖することによって、人の体内にハンセン菌が侵入して
 24 感染するが、明確な感染経路は現在でも不明
 28 である。しかし、呼吸、咳、唾液による飛沫感染に
 21 対して、ハンセン病は人が人に感染しているという
 28 ことが考えられていました。このことを知り、私は動物に
 30 はウイルスがとて多いことを知り、人は動物に比べて
 25 少ないが、細菌は多いと言われていることが分かった。また、
 29 さらに次はコロナウイルスの発生源が中国だったのに対して

ハンセン病の発生源が気になった。調べた結果、発
 24 源は分かったが、発見した場所が分かった。ハン
 26 セン病は1873年のパーマール・ハンセン医師により、
 29 菌という細菌による感染症であることが発見された
 24 病気が分かった。そして1873年に発見されたこと
 31 分かった。150年ほど前だが、最近の功
 34 能に感じている。ハンセン病は差別があると聞
 33 いて、調べてみると特徴が気になった。
 30 調べてみた。ハンセン病が発症すると、痛みが
 25 伴わない皮膚の発疹が現れると分かった。白い斑
 21 点や赤い斑点、赤い斑点、赤い斑点、円形に
 28 赤い発疹が現れる環状紅斑（かんじょうこうはん）な
 22 どの多彩な皮膚症状が現れるのが特徴だと調
 27 べて分かった。皮膚症状は1ヶ所のこともあり、
 29 現れることもある。今回ハンセン病のことを調
 24 べて、授業を履修して差別はやはり自分と違
 30 う人に対する差別はやはり自分と違う人を見
 28 ても差別は絶対にならな
 21 かった。そのため私は個人

- 31 意識が一番大切になっていくと思う。そのために流すのを合時
- 29 間違っていることは協定ないことか大切だ"と思う。これを意識
- 30 する人が増えれば古くなることはたしかに確実に減っていくと思う。
- 26 最も大切なことは未知の病気と病は腎臓とあるため未知の病ではわからなかつた治療法が分かるようにすれば少ないか差別は少なくなるかと思う。

15 レポート

- ・学習したことの中から、疑問に思ったことを1つ以上挙げ、調べたうえで分かったこと、考えたこと、さらに疑問に思ったことをレポートする。
- ・「かわいそう」や「気の毒」といった同情で終わりにせず、過去から現代まで続いている差別や偏見といった社会問題（ハンセン病に限定せず）にどのように向き合っていくことが大切かをレポートする。
- ・字数は900字（30行）以上とする。

僕は講師の話の聞いたり、ハンセン病についての本を読んで疑問に思ったのが、なぜそんなにハンセン病が恐れられたのかです。まずハンセン病とはどんな病気なのかについて説明します。ハンセン病は細菌による感染症の一つで、らい菌という結核菌と近縁関係にある細菌です。性質として一つ目は、人間の神経と親和性が強いので体に入ると早く末梢神経の中へ入りそこで増殖します。つまり手足の運動まひや痛みまひ、特に温度覚や痛覚のまひがよくなります。その次に皮膚、粘膜、さらに適切な治療がなされないで他の器官、例えば眼、鼻、咽喉、鞏膜などへ広がります。二つ目は、他の病原性細菌より分裂する時の温度が低いことです。このため、らい菌は比較的、温度が低いところを好みます。つまり、人の体でいえば手足の先と顔、頬、鼻、耳、眼などです。三つ目は、菌の増殖する速度がとて遅いですが細菌は原則として一個が二個、二個が四個、四個が八個

て条件さえあれば無限に増え続ける。すなわち一個の細菌が人の体内に入り2か3週間程度で百五十個くらいに増えてしまふ。つまり菌は一回分裂するのに二〜三週間かかる。なので、例え感染が成立しても、実際に症状として現れてくるまでに大変時間がかかる。この期間は潜伏期間と呼ばれ、この期間は長くても一〜二年、平均四〜五年で、長い例では、二十年〜三十年と言われている。さて話を戻し、ハンセン病はなぜ恐れられたのかについて僕は疑問を持ちました。ハンセン病は人類の歴史上、嫌われ病気であり、社会からいらいだし、放浪する患者の出現、救済、隔離といった道程、どの社会においても必ずといっていいほどとられているのです。それでは、どうしてこの病気が嫌われたのでしょうか。一つ目は、変形と機能障害です。先ほどの性質で述べたように、一目見てあかるところに変形や機能障害がよります。手足、顔、顔の中でも眼、鼻、耳、眉毛、頭髮などに障害が多く、嫌われた要因の第一です。二つ目は、この病気が不治の病と見なされていたことです。ハンセン病にはいまだ有効な薬とされる薬の登場が一九四三年のことですから、明治、大正、昭和初期とこの病気が不治の病と考えられ、恐れられていました。他に医学的知識の乏しかった時代、この病気が遺伝病

と承知されていたし、「らい予防法」という法律を作り、人権を無視した終生隔離政策などを行ったことにより、この病気に悲惨なイメージを植え付けた。このような差別や偏見がまだ残る世の中で、僕はそれらにとわめず、自ら情報を知らべ自分の意見を述べるようにしたいと思わされた。

15 レポート

- ・学習したことの中から、疑問に思ったことを1つ以上挙げ、調べたうえで分かったこと、考えたこと、さらに疑問に思ったことをレポートする。
- ・「かわいそう」や「気の毒」といった同情で終わりにせず、過去から現代まで続いている差別や偏見といった社会問題（ハンセン病に限定せず）にどのように向き合っていくことが大切かをレポートする。
- ・字数は900字（30行）以上とする。

学習したことから、ハンセン病患者、その家族のやるせない気持ちや恐怖心を読み取ることができました。しかし、患者の周りの人（療養所の職員、学校の先生、近所の人）はどう思っていたのか。差別をしないという人はいたのか、たの疑問に思った。こう思った理由は、この冊子11ページの療養所の学校が「先生は「なまに。うつてもいいじゃないか！」という部分があった。周りの人や家族が士えも差別するような世の中にも心の温かい人はいたのかと感じた。

ハンセン病患者に対して良い行動をした人を調べる際に茨沢栄一の名前が出てきて、国立ハンセン病資料館がYoutubeで紹介している¹⁰動画をみた。茨沢がハンセン病と出会ったのは、少年期に隣の家に患者親子が住んでおり、茨沢の母とその親子が深く関わっていたことだ。このことがきっかけとなって、茨沢は社会福祉に関心をもつ。

成人してからさまざまな福祉団体、施設の経営、寄付をするなどしている中で光田健輔と出会うことがきっかけで「らい予防に関する件」に関わるようになった。結果として、善意で患者を救おうと活動したのが人権侵害、隔離政策となり、患者や家族を苦しめた。このことから、善意が活動していたからといって結果もまた良いものであるとは限りない、逆に当時者を傷つけてしまうこともあると思った。茨沢栄一は民間人があって医師ではないのに積極的に活動したのはまず²⁰いいと思った。医師や看護師のハンセン病患者と関わるきっかけが気になった。

図書館で本を調べる際に「神谷美恵子の世界」という本を読んだ。神谷美恵子さんは、日本の精神科医で哲学書、文学書の翻訳やエッセイの著者としても知られ、65歳でハンセン病患者に寄り添った生涯を終えた。

そんな神谷さんからハンセン病患者と出会ったのは、19歳の時に叔父に誘われて訪れた多摩全生園でオルガンを弾いた時。大きなショックを受けた。このときから医師になる志をもったが、この時代は女性に対する差別、特に学問を志す女性への差別が非常に大きく、両親に反対される。志では反対されることを繰り返すが、精神科医になる。また、音見をしたから長島³⁰全生園へ非常勤で働きつづけた。歳寒の中でもハンセン病特有

の症状に苦しむ患者さんのところへ往診へ行く、患者さんに対する
思いが強い人であった。このような内容が本には書かれていた。
神谷さんの場合は、女性というハンセン病とはまた異なる差別
が伴っていた。医学の道へ行くのが困難だという中でも辛抱強く
機械を待ちつかけ、志を成し遂げる。それも、人権侵害されてい
るハンセン病患者のために。強い思いを持って行動に移そうと
困難に負けずに思いがけるというのは現代の社会問題に
対してやその他の様々なことにも通がる力があると考え。
誰かの行動を起こしてくれるだろうと待っているのではなく、
正しい歴史を知り、学び、自分が出来ることは何かを考え、小さな
ことでも行動をし続けることが大切だ"と考える。SNSが普及
し、多様な意見が交わされる現代で正しい情報かどうかを
見分ける力は大切に扱われると考える。差別や偏見をゼロ
にすることは難しくても、多くの人が問題に向き合い理解が
深まることもまた大切だ"と考える。 問題に対する

15 レポート

- ・学習したことの中から、疑問に思ったことを1つ以上挙げ、調べたうえで分かったこと、考えたこと、さらに疑問に思ったことをレポートする。
- ・「かわいそう」や「気の毒」といった同情で終わりにせず、過去から現代まで続いている差別や偏見といった社会問題（ハンセン病に限定せず）にどのように向き合っていくことが大切かをレポートする。
- ・字数は900字（30行）以上とする。

授業でハンセン病のことを学び、ハンセン病患者の家族に対する差別はどのように行われ、国からはどのような政策が取られたのかについて調べた。

ハンセン病は細菌による感染症だ。衛生状態や栄養状態が改善した今の日本では感染することも発病することもほぼないといえる。

治療薬がなかった時代から手足の変形や外見が変わるといった後遺症のため患者は偏見や差別にさらされてきた。国は明治40年、法律の下で患者の療養所への隔離を開始。

ハンセン病は隔離が必要ほどの恐ろしい病気だ。こうした意識を社会に植え付けたことも

いえる隔離政策は平成8年までおよそ40年続いた。その5年後、元患者が隔離政策は憲法に違反すると訴えた裁判で国は全面的に敗訴し、当時の小泉総理大臣は控訴を断念して謝罪。元患者に補償する法律も成立した。しかし家族はその対象に含めず、被害は見過ごされてきたのだ。

では家族が受けた人生被害とは一体どのようなものか。ある裁判の原告は561人。その7割近くが親がハンセン病だったという人である。親が療養所に隔離されたあと自宅が裏面に消毒され地域で暮らしては行けなくなった。職場を追われた、離婚を余儀なくされた。受けた被害の内容は様々だが、共通するのは潜在的な感染者というレッテルを貼られ、偏見や差別にさらされてきたということである。家族の訴えを裁判所は概ね認めた。判決は、国の隔離政策により家族が大部分の

国民から偏見や差別を受ける社会構造を
作り出したと断じた。国の隔離政策は
家族を対象としていないという主張は退け
られたのである。家族にも被害を及ぼした
隔離政策。患者の家族は、社会の中で排
除されてきたともいえる。元患者、そして家族の
いずれも隔離政策の被害者だ」というのは紛
れもない事実なのだ。

内閣府のルニセニ病の元患者や家族に対し
どのような人権問題が起きているかの調
査によると、差別的な言動、結婚問題
での周囲の反対、就職・職場での不利な
扱いを挙げた人の割合が「いずれもおよ
ぶ割を占めている。偏見、差別の解消に特
効薬はなく、地道な活動が必要だ」と感じた。
元患者だけでなく、家族にも語り部となっ
てほしい。この時代にあたり、不信の任方を工夫
すること、そしてそのための予算や人材を確保

していく必要があると考える。病気になったと
いうだけで家族も含め偏見、差別にさらさ
れたという負の歴史を繰り返してはならない。
身近な病気に対しては誤った知識や思
込みで誰かを傷つけていないか。ルニセニ病
の問題は私たちに大きな教訓を突きつけ
てのうと感じた。

15 レポート

- ・学習したことの中から、疑問に思ったことを1つ以上挙げ、調べたうえで分かったこと、考えたこと、さらに疑問に思ったことをレポートする。
- ・「かわいそう」や「気の毒」といった同情で終わりにせずに、過去から現代まで続いている差別や偏見といった社会問題（ハンセン病に限定せず）にどのように向き合っていくことが大切かをレポートする。
- ・字数は900字（30行）以上とする。

ハンセン病患者は施設に入れられ、家族とも
会えなくなってしまう。さらに、施設では、
服とお金を回収され、外に出ることも
許されならしい。施設の中では、
園券といったお金を使った。また、自分同
じ服を着ていたらしい。ハンセン病患者
は、周りの人から差別を受けた。それは別に
ハンセン病にかかってもいいという人もいた。
また、ハンセン病患者の子は産まてくるこ
とも許されなかった。私は、なぜこのよう
な差別や、誤解が生まれたのだろうと思
った。昔は、ハンセン病の人から生まれる子は
ハンセン病の子だ。という考えがあった。だから、

その子は生まれてすぐ殺さてしまう。でもそれはこ
にはなく、生まれてくる子にハンセン病とは限
らない。現在では、そのことが証明され、
一般の病気と同じ扱いになっている。その
ことからハンセン病に対する誤解はなくな
ってきていると思う。現代でもコロナウイルス
などで嫌がらせを受けたり、バク菌扱いさ
れなどといった差別などが最近のころにあつ
た。でも、今ではそれも一般の病気と
して扱われている。そういう部分でも現代
では、差別や誤解は減っているのかと思
う。私は差別や誤解を生まないよう
にするためには、まず相手のことを知り、正し
い情報をして、真実を認め、受け入れ
るべきことだと思ふ。そうすれば、
誤解や差別は少しずつ減っていくの
ではないかと思った。お互い分かっ合
うことがとても大切だと思ふ。

15 レポート

- ・学習したことの中から、疑問に思ったことを1つ以上挙げ、調べたうえで分かったこと、考えたこと、さらに疑問に思ったことをレポートする。
- ・「かわいそう」や「気の毒」といった同情で終わりにせず、過去から現代まで続いている差別や偏見といった社会問題(ハンセン病に限定せず)にどのように向き合っていくことが大切かをレポートする。
- ・字数は900字(30行)以上とする。

「胎児標本」という名の殺人

いせ二病患者は療養所という名の隔離場所にいるが、誰もか人間であって、普通の生活を望んでいる。病院内での結婚もあったことを知ると同時に「胎児標本」という言葉も知った。当時の結婚するための条件は、男性は断種を強要され、女性は妊娠したら墮ろされた。墮ろされた赤ちゃんの数は3000を超えろ。そして多くの赤ちゃんは火葬されたか、一部の母親には知らせずに「ホルマリン漬け」にされていたそう。その数、115体残されて¹⁰いる。なぜホルマリン漬けをしていたのか。それは当時の医師達は胎盤から胎児に感染する説を信じていたからだ。経験者のお話を見ていく

なかで我が子というのほとても特別。

麻酔などもないわけだから、ものすごい痛みを耐えての出産にもかかわらずに、性別を聞かされ、一目見たらもうおしまい。もう会えない。

母親たちは、家族としての供養を望んでいる。だからこそ、「中間案」(厚労省説明)とはいえ、廃棄物のように胎児を一度に火葬することは許せないのだ。なかには自ら進んで墮胎手術を受けた女性もいるそうだ。夫婦でも墮胎後は、小さな人形を飾り、毎日声をかけ、着替えさせていたという。誰もが小さな命をいとおしんだのだ。これは「生きることを許されない子供」だったということを知った。十4人の強制収容所のような回策をし、謝罪も行われなかった。他にも子供達が、過酷な隔離+強制労働において病気で命を失ったり、絶望して自殺しているケースが何個もある。経験者、体験者のエピソードを見ていく³⁰

中で、自分が実際にいせ二病にかかり、強制的に

連れていかれ、結婚はできるが、妊娠して産めないと考えると、悲惨すぎて深く考えられない。しかも周りの視線も気にして生きな
ま、だし、もう生きる意味もわからなくなりそう。
いい衛生環境だし、明治時代はものも
発達していい。今を生活している人からす
れば、スマホやWi-Fiなどもなく、楽しみが
少ないと思う。と長くもたないなと思った。
H2E=病は広く知られていないと思うけど、
H2E=病を通して行われた施策について
よく知り、正しい知識を得た上で向き合っていく
ことが大切だと考える

15 レポート

- ・学習したことの中から、疑問に思ったことを1つ以上挙げ、調べたうえで分かったこと、考えたこと、さらに疑問に思ったことをレポートする。
- ・「かわいそう」や「気の毒」といった同情で終わりにせず、過去から現代まで続いている差別や偏見といった社会問題（ハンセン病に限定せず）にどのように向き合っていくことが大切かをレポートする。
- ・字数は900字（30行）以上とする。

まずハンセン病とはそもそもなにがあまりわからずは
 状態でのスタートでとても大変でした。そこであ子
 疑問ができました。1つ目はハンセン病は人間だけで
 はなく動物にも感染してしまうのか？もし感染してしまつたら
 どのような症状がおこしてしまうのか？と疑問に
 なり探らべてみました。まず1873年に動物から人間
 に感染してしまつたと調べてみてわかった。その中に
 アルマジロ、牛、パンジー、コガベヤサルなども多く人に
 感染してしまつたと調べてみてわかった。あと脊髄、
 眼、唇部位などの皮内、皮下、神経内、
 鼻腔内、静脈、神経内¹⁰などが考えられる。(感染ルート) 次にどのような症状か
 を調べてみると、皮膚や感覚に特徴的な変化がみられ
 症気です。特に痛みやかゆみなどが少ないことがこの症気の

る。いところでは治療をしないとこのよう症状が
 残ることになり、大変な事がわかってきました。
 2つ目はハンセン病をおかす薬はどのような感じの
 薬なのか？それは一体本当に手遅れが
 多い治療では主に抗菌薬やステロイドの飲み薬が大半です。
 今でも使われているお薬が昔から飲んでいてのこと
 びっくりです。次はその薬が効くのかどうか、まずこの病²⁰
 気は長い間(数年)はずっと飲み続けなければならない物
 です。そして抗菌薬は早くても半年はかかると書いてあ
 りました。最近では半年くらい飲み続ければ「癒し
 足りない症状」が残りにくいそうです。昔の人とは
 だいぶ変わりました。おこっていることにびっくりと尊敬
 すべき部分がありました。今自分がハンセン病になつたら
 この感じの薬を半年以上飲み続ける事はできる
 と思います。今は本当にハンセン病の人が減つて
 きているので、これからはいい生活をおこす
 ために、本当にかかっている前の人
 の感想に書いてあげたい。本当に人の子か？
 21=いいあつかい³⁰
 をさかす人権はない。21=いい生活を

びっくりしました。そのころの人のまぢがいて人をとめておぼ
しうか、ととめておぼしうか、思ひをしたのかをしかり、国が、おんせ
するべしと思ふ。これが自分の心で、おぼしうか、思ひ、こと
疑問に思ふことのしるすてし。

15 レポート

- ・学習したことの中から、疑問に思ったことを1つ以上挙げ、調べたうえで分かったこと、考えたこと、さらに疑問に思ったことをレポートする。
- ・「かわいそう」や「気の毒」といった同情で終わりにせず、過去から現代まで続いている差別や偏見といった社会問題（ハンセン病に限定せず）にどのように向き合っていくことが大切かをレポートする。
- ・字数は900字（30行）以上とする。

今の時代まであるハンセン病は差別や偏見といった社会問題になっている。ハンセン病とは、らい菌と呼ばれる細菌に感染することで、皮膚が変化したり、神経のほろつきが悪くなったりする病気である。ハンセン病を発症すると、痛みやかゆみ皮膚疹が現れる。目に見える物では白い斑点かでき、赤い斑点かできたり、円形に赤い発疹かできる。神経を侵す病気なので神経の支配区域にしびれと筋力低下が生じる。それによって、ハンセン病にかかった人は治療をしなければならぬ。今の時代では早期発見で治る病気であるが、昔の時代は医療があまり発達していなかったためハンセン病にかかった人は治らないため、不治の病と言われていた。ハンセン病にかかった患者は各地方の療養所に送られて治療を受ける。ハンセン病にかかった患者はみんな治ると思っ

てはなかった。療養所には目の不自由な方がいたり、手が足が重くない着者も居たそうです。療養所は患者が逃げないように、警備員に見張られており、逃げた患者は捕まえて監房にいれられていたそうです。療養所の生活では、患者は家族や友人との接見も制限されて、自給自足の生活が求められていた。療養所で生活をしている患者は偏見や差別に苦しみ、それが貧乏者の心身に大きな影響を与えていたそうです。崖々各な生活条件が課せられ、一部の施設では患者に対して労働が求められていた。これが患者の身体的・精神的な健康に影響を与えていた。社会からの非難や理解されない感覚が、心に深い傷を残したそうです。僕はハンセン病について調べていくにつれて、ハンセン病の歴史がとてつらく感じました。資料を読んで当時の患者の様子を知ることができたのでよかった。今の時代でも差別や偏見をもつ人がいるので、なくなしてほしいと思っ手した。差別をする人が偏見をもつ人なので、もし自分が

ハシセノ病にかかって、差別される身になった時の事を考えてほしいと思いました。

15 レポート

- ・学習したことの中から、疑問に思ったことを1つ以上挙げ、調べたうえで分かったこと、考えたこと、さらに疑問に思ったことをレポートする。
- ・「かわいそう」や「気の毒」といった同情で終わりにせず、過去から現代まで続いている差別や偏見といった社会問題（ハンセン病に限定せず）にどのように向き合っていくことが大切かをレポートする。
- ・字数は900字（30行）以上とする。

ハンセン病について学んだこと、そもそも僕はハンセン病について学ぶまでは聞いたことがありませんでした。中学校の人権童話を聞いてからハンセン病について色々考えたりして、そこまで深くは考えませんでした。今回の授業で思ったのは一人一人が理解や意識することが大切だと考えました。理由は一応、昔の出来事のことだと思っただけですが、元感染者はいるし、社会的に差別されているので一人一人がハンセン病について知っておくべきです。

ハンセン病について元々は「らい病」と言われていた菌という菌が原因で起こる。そもそもハンセン病は感染力が非常に弱く移りにくい病気だった。感染力条件が揃ってこそ感染しないこともある。昔の枝村じぶんも、そこを知らなかったから、現れたら、何が問題だったかと

えと一番は見た目がと言われています。皮膚と末梢神経が侵される疾患で、初期症状は皮膚と口は赤い皮膚の疾患と、痛さや熱さの感覚が失われる知覚麻痺がある。強制的に収容所に隔離された患者は外出禁止だった。第二次世界大戦後に治療薬がなくても患者は隔離されてしまっていた。最近その隔離状態は解かれてきたが、いまも理解されずに差別されることもあります。収容所は色んなところにある。身勝手な自分たちのことは自分でやるスタイルで散髪や食育など。子供は腰かけたお風呂を洗い、それを巻き直すなどのことをしました。監禁部屋みたいなところもある。僕は中学生の時ハンセン病についての映画を見た。あらすじはじぶんやき屋さんにお客さん来て言われたら、おめたから時給三百円で良いから働かせたいと言ってきましたが、追って戻りました。たまたまおれと言われ、帰りました。後日また来てビニール製を渡してきて、中には二人が入っていて管理してても

おいしくお渡さんに手伝いと言、えら。
お渡ちゃんはおせか、知してしうました、とて、
良い映画好きのてうがきは、見てくたさい。
まため、お渡ちゃん推かたないんじやないかて
この差別をさるもいた、収容所から逃げてくる
の場所を知られてそこで自殺するくらいキツか、え
と思う、今もなお差別があるこの社会を
変えたいと思うけど、自分だけできるのはあまりない
気がします、せめても、自分だけは正しいことを
とりかいておきたいです。